

No. 364【2019年7月12日配信】

米軍の進駐と古川国民学校 (担当: 工藤)

こんにちは！ 室長の工藤です。

今回は先週とおなじく、市民図書館内の展示に絡めた話題を提供いたします。

敗戦後の昭和20年(1945)9月25日、アメリカ軍による青森市への進駐が始まりました。9月27日付の『東奥日報』によれば、午前9時～午後1時までに青森市に上陸した兵士は4,000名以上で、上陸兵士はその夜「市内青森水上署附近、北片岡町、古川国民学校、浪打、国道浦町、油川町、原別、浅虫等に天幕野営、舎営などで第一夜を明かした」といいます。これら野営地・舎営地のうち、今回は古川国民学校(現古川小学校)に着目します。



青森空襲で罹災した古川国民学校

戦後の学校教育は、8月28日の文部省(現文部科学省)通達によって平常授業が復活したといえます。青森市のばあい、7月28日の空襲で多くの学校が焼失したこともあり、焼失を免れた古川国民学校(以下、古川校)では、焼失した浦町国民学校(以下、浦町校)の初等科と新町国民学校の児童も収容しました。このうち浦町校では、9月10日に学校の「一時閉鎖式」を行い、初等科では同じ日に古川校で「受入式」も行っています。このように学校を移ったのは児童ばかりでなく教員も対象となり、浦町校33名の教員のうち教頭を含む13名が古川校へ臨時的に異動となっています。

さて、アメリカ軍の進駐が始まった9月25日～28日まで、児童は休業となりました。ですから、古川校にアメリカ軍の兵士がやってきても、そこで児童と兵士が遭遇することはなかったとみられます。

ただ、ここでひとつ問題が発生したのです。翌26日に古川校の校舎がアメリカ軍に「占拠」されることになったのです。翌27日も「以前(ママ)トシテ古川校舎米軍占拠」と浦町校の記録にあるので、学校側としては「不意打ち」だったのかもしれませんが。そして、占拠は28日の休業明けも続き、古川校に勤務となった浦町校の教員は、29日から長島国民学校(以下、長島校)で勤務することに決定しました。

古川校の占拠は10月3日に解除となり、学校は元に戻ったと考えられます。では、9月29日～10月3日まで古川校の児童はどうなったのでしょうか。この頃から日曜・祭日は休業日となっているので、9月30日は日曜で児童はお休みでした。それ以外は分かりません。ただ、浦町校から古川校に移った教員が長島校での勤務となっているので、少なくとも浦町校の児童は長島校に通うことになったと見るのが妥当かと思います。

一方、古川校には1,200名を超える児童がいたということなので、戦災で学校数が限られるこの時期に児童の振り分けは可能か…とも思います。この間の古川校の児童の行方について、市民の皆さんのなかで何かご存知でしたら教えていただけると幸いです。